街宣車が来た

市民と歩む会　河本英敏

質問↓三月上旬に政治団体の街宣車が市内で津山市の最高権力者などと放送していた。最高権力者と言えば市長のこと。広域ごみ処理施設に関わって嘘をつき、騙したと言わんばかりの街宣内容と思われ、市民の方から心配の声を聞いた。なぜ、政治団体がそのような情報を入手しているのか。誰が流したのかわからないが、街宣の目的は何か。お気付きの方はいないか。何であれ、このような行為は、市民皆様に何事なのかと不安や不信を与えかねない卑劣な行為と思うがどうか。

答弁↓なし・・・。

質問↓県が黒木ダムの管理を津山市にとの意向だが、大規模な施設。下流域の防災面も考えて市の対応はどうか。

答弁↓県からの管理の要請はあっても、市としては、県での管理を強く要請していく。

緊急、解雇・生活相談所の開設と景気・地域経済の再生を

日本共産党津山市議団　久永良一

質問↓「派遣切り」など、解雇された人々の生活、雇用の緊急なんでも相談所が必要だ。景気・地域経済の再生では、企業誘致、生活密着型公共事業の推進とあわせて、新しい資本の蓄積と経済循環型でなくてはならない。津山の観光資源を生かした観光客数と滞在時間を増やすこと。地元木材を使用した地元業者による住宅建築の促進、農業活性化と中小企業の支援に力点をおかねばならない。金融機関が住宅ローンの貸し渋りをしないように申し入れては。

市長↓色々な手を打って金融機関等にそういうことのないように要請しなければならないと思っている。

経済文化部長↓ふるさとだよりは費用対効果も考えながら効率的な宣伝方法について研究する。

めざせ元気！介護予防日本一を

市民と歩む会　秋久憲司

質問↓介護予防は「めざせ元気こけないからだ講座」の効果は。また、高齢者を地域全体で支え助け合う「地域ケアシステム」にも取り組み「介護予防日本一」を目指してはどうか。

市長↓参加者の八割以上の人が体調や生活に良い変化を感じている。「地域ケアシステム」は四～五町内会支部でモデル事業に取り組みたい。今後も介護予防に力を入れ、取り組む。

質問↓小中学校の特別支援教育は、新学期に向けて保護者の方々に不安が募っている。現状と充実策は。

答弁↓特別支援学級には約二百名の生徒がいる。特別支援教育の充実のために関係者との定期的な連絡会を立ち上げ体制整備を図りたい。臨床心理士等が担う役割は高まっており体制整備に向け、研究したい。

新生児に給付金、市独自の支給は

木下健二

質問↓定額給付金について、他の市町村では、プレミア付き商品券を発行するところもある。津山市ではどうか。本来は給付が受けられない二月一日以降に生まれた新生児に独自支給の考えは。

答弁↓商工関係団体と相談したところ、九十九年に発行された地域振興券では大型量販店のひとり勝ち状態だったので、「他の方法で地域経済の活性につなげる方向に」となっている。定額給付金は、市町村で事務を取り扱っているが、費用はすべて国の負担であり、現在、独自支給する考えはない。

質問↓グラスハウス存続に英知を絞って欲しい。

答弁↓利用者数、利用料収入は年々減少してきており、存続することは困難であると判断している。

◎ 議員は選挙区内の運動会やスポーツ大会への飲食物の差し入れは禁止されています。